

左京はあとふるプラン

ニュースレター第10号



平成26年3月発行／京都市左京区役所地域力推進室

左京区役所では、平成23年度からの10年間のまちづくりの指針である「左京はあとふるプラン」(左京区基本計画)が目指す「自然を愛で、歴史を学び、文化を楽しむ」まちづくりを進めています。

このニュースレターでは、「左京はあとふるプラン」の推進に関する情報をお伝えしていきます。

京都市次代の左京まちづくり会議を開催



3月12日に、京都市次代の左京まちづくり会議を開催しました。会議では、来年度予算案「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」等の概要説明を行うとともに、区基本計画リーディングプロジェクトについて議論しました。

平成26年度予算案の概要

平成26年度 予算額 22,640千円

区民の自主的な活動を支援する「左京区まちづくり活動支援交付金」事業では、補助限度額と交付割合を優遇した「重点分野部門」を新設し、地域文化振興や里山整備などの取組を促進します。また、昨年度、皆様からいただいたふるさと納税寄付金を活用し、学生が伝統文化に触れる機会を新たに創出するなど、16の事業を区民の皆様との共汗の下で実施します。

主な事業

- ・左京区まちづくり活動支援交付金(7,508千円)
- ・北部山間地域の古民家活用ネットワーク事業(1,250千円)
- ・久多地域の支え合い、助け合いのまちづくり～ボランティア乗合タクシーの毎月運行(550千円)
- ・防災対策を通じた地域コミュニティの強化モデル事業(1,600千円)
- ・左京の自然を愛でるプロジェクト～チマキザサの再生を左京から(900千円)
- ・京の伝統文化体験 in 大学のまち左京(300千円)
- ・アウトドア婚活・山村都市めぐり愛ツアー(350千円)
- ・高齢者くらしの応援サービス情報(550千円)



左京区民生児童委員会会長 矢野武也氏が委員に就任



黒松文子委員の後任として、長年子育てや福祉の分野で尽力されている矢野氏に参画いただくこととなりました。



左京区を応援してください！

京都市では、京都の文化や自然を大切にし、次の世代に引き継いでいくため「だいすきっ！京都。寄付金」を募っています。

平成25年度に「左京区の地域振興」のために御寄付いただいた725,200円は、平成26年度以降の左京区のまちづくりのために活用させていただきます。引き続き、みなさまからの御支援をお待ちしております。

※確定申告することにより所得税及び住民税の寄付金控除が受けられます。

区基本計画リーディングプロジェクト①

「左京の自然を愛でるプロジェクト～チマキザサの再生を左京から」

概要 左京区北部の花脊・別所地域等に分布するチマキザサは、古くから祇園祭の厄病・災難除けのお守りのちまき粽の材料や和菓子等に使用されてきたが、笹枯れと野生鹿の食害などで絶滅の危機に瀕している。本プロジェクトでは、区民・祇園祭鉾町等との連携を図りつつ、チマキザサの再生に向けた取組を推進し、将来的に祇園祭や和菓子業界での活用復活を目指す。

25年度実績

- ①チマキザササポーター（里親）への参加を区民等に呼びかける取組を実施
- (ア) 市内小学生親子向けの連続講座、株分けを実施（全3回、延べ参加者数92名）
- (イ) 祇園祭と関わりの深い高倉小学校での講座、株分けを実施（参加者数：120名）

⇒新規の里親数：一般市民16組、高倉小学校4年生児童120名

- ②チマキザサ生育地域での保護活動を実施

26年度予定

- ①次代を担う花背小中学校児童と高倉小学校児童の交流事業を実施
- ②本格的な笹の育成に向けて「新たな苗畑、植樹場所の確保・維持管理」を実施

主な意見

- ・「京都市生物多様性プラン」でも取り上げられ、昨年12月開催の「第7回生物多様性協働フォーラム」でも大きな話題になった。これからも多くの方を巻き込みながら、文化と環境の両面から発信していきたい。
- ・左京区北部地域で取り組んでいる様々な事業と連動させることで、多くの方に興味を持っていただきながら、長期的に取り組んでいきたい。



区基本計画リーディングプロジェクト②

「まちの居場所でほっとプロジェクト@左京」

概要 左京区内で、誰もが気軽に利用できる居場所を増やしていくとともに、保健福祉局の「高齢者の居場所づくりに対する助成制度」の助成要件に対応できるよう支援等を行い、地域での顔の見える関係づくりを進める。



25年度実績

- ①社会学者 上野千鶴子氏による講演会の開催（参加者数：121名）
- ②左京区まちの居場所塾（全5回）の開催（実参加者数：36名）

26年度予定

- ①左京区まちの居場所塾の実践編を実施
- ②区内の居場所に関する実態調査
- ③ホームページ拡充や広報紙発行等による「居場所」の周知強化



主な意見

- ・核家族化が進み世代間の交流が少なくなっている現代では、多様な世代が集う「まちの居場所」のような場で、色々な世代の方が交流することが大事である。このような場は、地域での高齢者の孤立を防ぐ一助となる。

・この取組のように、地域活動を活発にするには、地域へ新たに転入してきた方に自治会等へ参加してもらい、元気なお母さんたちに地域活動の柱になっていただくことが大切なのではないか。

その他意見交換内容（抜粋） ・小学生向けの狂言鑑賞会など子どもたちが伝統文化を体験できる機会の創出は、非常に意義がある。「歴史・文化・学問のまちづくり」を掲げる左京区で、全市に先駆けたリーディングプロジェクトとして実施していきたい。

・学校、地域、家庭の連携を密にして、子どもたちが地域で元気に安心して暮らせるよう取り組んでいきたい。

